

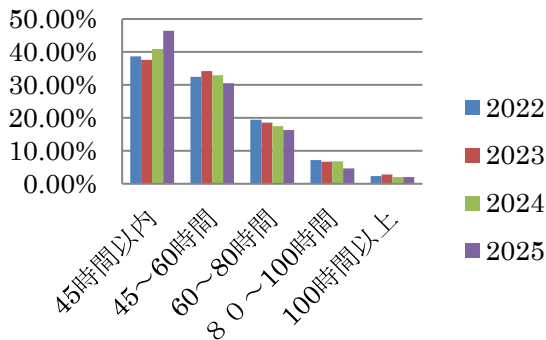
働きやすい職場づくりアンケートより

2025 熊本県教職員組合 その1

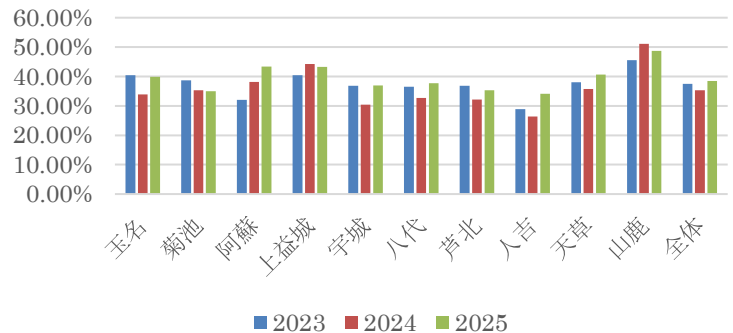
熊本県教職員組合では今年もアンケートを実施し、2509名という過去最高の回答を寄せていただきました。ご協力ありがとうございます。おもな結果をご報告させていただきます。

月当たりの時間外45時間以内増加するも不正打刻も増加

ひと月当たりの超勤時間

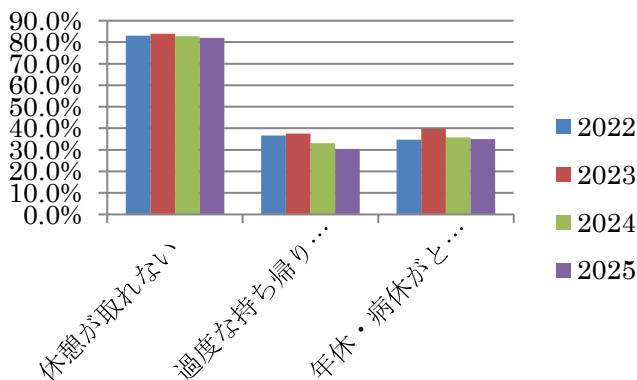


管内別正しく記録していない割合



全体としては時間外 45 時間以内が増加しています。しかし、土日の出勤や部活動の時間を記録しないなど正しく記録していない割合は増えています(9管内中7管内で増加)。これは、業務削減のないまま早く退勤するように求められるため、仕方なく終わらない仕事を持ち帰ったり、土日に出てきたりして済ませていることが考えられます。

8割の人が休憩時間がとれない！



毎年8割の人が休憩時間がとれないと回答しています。県教委交渉で毎年改善を求めていますですが変化がありません。日課上では休憩時間があっても実際には取れていないのです。小規模校であれば給食ルームに子どもたちを集め、給食時間の支援員を置くなどして、給食時間を教職員の休憩時間にすることもできるはずですが。大規模校なら給食見守りボランティアや支援員、持ち回り当番で見守るなどして教職員の休憩時間を給食時間に確保することなども考えられます。食に関する指導は給食時間外でも学活の時間などで可能です。

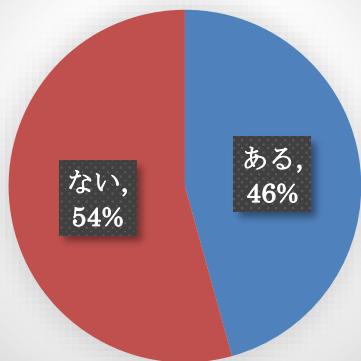
熊本県教育委員会は働き方改革推進プランの中で「教職員の意識改革」を求めています。しかし、アンケートの回答では「定時退勤は理解しているが、残っている仕事があるときも帰らざるをえない。休日に出勤しているのが現実です。」「早く帰るように促されます。勤務時間は短くなったように見えても、結局、夜や週末にたくさん家で仕事をしています。仕事の量が減ることはなく、ただ勤務時間を短くしても意味はないと思ってしまいます。逆に、早く帰るように促されることがストレスです。」といった声が多くありました。やらなくていい業務を明確にして、実際にその業務をやらなくても問題はなかったという実感が持てて初めて教職員の意識改革が進むと思います。熊教組は具体的な業務削減を引き続き求めていきます。

働きやすい職場づくりアンケートより

2024 熊本県教職員組合 その2

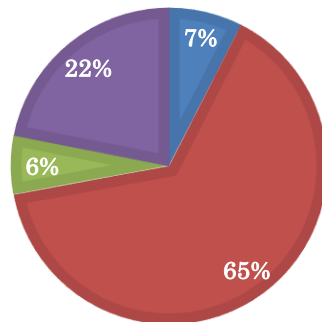
その1 に続いてアンケート結果を報告します。

朝の登校指導



フッ化物洗口の負担

■減った ■変わらない ■増えた ■わからない



学校外業務の「朝の登校指導」「フッ化物洗口」いずれも学校の負担が続く

文科省が「学校外業務」に位置付ける朝の登校指導は今年も半数近くの教職員が関わっていることがわかりました。昨年とほぼ変わりはありません。また、そもそも学校の業務でない集団フッ化物洗口の負担についてもあいかわらず学校に大きな負担をかけていることがアンケート結果からわかりました。県教委や市町村教委に対して改善を求めています。特に毎週の集団フッ化物洗口は人員不足の中ますますその負担は増えています。県がすすめる集団フッ化物洗口を学校では行わないよう県や県教委に求めています。

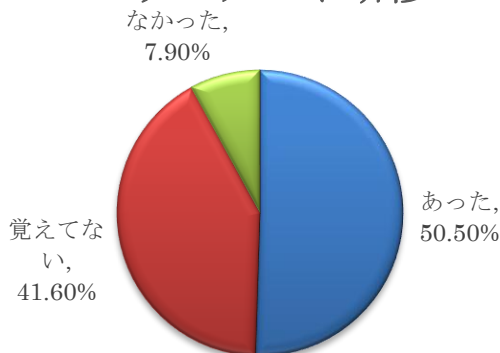
ハラスメントのない職場をめざして

昨年の交渉で県教委はハラスメント防止指針の策定を約束しました。2025年6月1日付で通知され各学校で研修が行われています。アンケートを取った時点で約半数の学校でハラスメント防止のための研修が行われています。これからもこの指針に沿ってハラスメントのない職場になるように組合としてもその進み具合を注視していきます。

ハラスメント防止指針はこちらから⇒



ハラスメント研修



アンケートの自由記述で、小学校は保護者対応の負担が増えていることがわかりました。また、中学校は部活動の地域移行を望む声が多かったです。一方、「とにかく職員の人数が足りないと思います。今年度は印刷、丸付けをしてくださる先生（教員業務支援員）が1人いらっしゃるで大変助かっています。」「現任校では年々働き方改革が進んで、20、30年前とは大違いで、在校時間が短くなっています。」といった声もありました。熊教組は皆さんの声をもとにこれからも働きやすい職場づくりを進めていきます。

本来学校はみんなにとって楽しいところです。友だちがいて、楽しく学び、元気に遊ぶ。先生たちも子どもたちの成長を保護者と共に喜びあいながら働いています。長時間労働をなくし、本来の学校の姿に戻れば、きっと学校で働きたい人も増えます。その実現のためにこれからもいっしょに考え行動していきましょう。